

## 研究の経過と概要

### 1 今年度の部会研究テーマ

「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

### 2 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

5月 8日(水)	研究組織・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
5月22日(水)	具体的な研究計画 授業者決定 情報交換
6月12日(水)	研究授業の授業づくり（後屋敷小：桐山）
8月 9日(金)	臨地研修 笛吹市春日居郷土館 特別展 わが町の八月十五日展 講師 笛吹市 文化財課 文化財担当 内田裕一先生 研究授業の授業案検討（後屋敷小：桐山）
8月28日(水)	統一授業研究会（後屋敷小：桐山）
9月18日(水)	実践報告（大和小：田邊 後屋敷小：岩下秀）
11月27日(水)	実践報告（山梨小：岩下城）
1月15日(水)	実践報告（山梨北中：永関 八幡小：日野原）
2月 5日(水)	実践報告（山梨北中：広瀬 笛川中・古屋）
2月12日(水)	成果と課題・来年度に向けて

### 3 研究の成果と課題

- ・研究テーマを意識しながら、児童生徒の実態に応じた授業実践を一人一人行うことができています。また、こうした実践を持ち寄り、情報交換を行うことで効果的な授業過程や指導法について学ぶこともできています。
- ・指導助言者の先生に毎回資料を提供していただき、実践だけでなく知識も増やすことができています。その中で、普段何気なく行っている日常の指導についても考え、見つめ直すことができました。
- ・笛吹市春日居郷土館特別展「わが町の八月十五日展」を内田裕一先生の解説を聞きながら地域に残る戦争資料や戦時中の学校の様子などを実際の写真や資料を見学し学習することができました。平和学習の実践に教材として活用できる資料の発見と、戦争と平和について子ども達とともに学んでいくための知識を広げることができる良い機会となった。
- ・最近の国際情勢からくる平和や人権問題について、日本としての立場や役割を考えていくことなど、平和・人権・国際連帯に関する私たちの知識・理解をさらに深めていく必要がある。

### 4 研究の仲間

◇指導助言者 高添 勉（玉宮小）

◇部会員 田邊博幸（大和小） 古屋勝之（笛川中） 広瀬竜太（山梨北中）  
岩下 城（山梨小） 日野原和貴（八幡小） 桐山祐希（後屋敷小）  
岩下秀人（後屋敷小） 永関幸玄（山梨北中）

## 人権教育の目標

本部会では、以下の2点を軸に人権教育の取り組みを行ってきた。

- ① 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること
- ② 相手との違いに気づき、認め合うこと

文部科学省のホームページにも、人権尊重の理念として「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」が挙げられている。

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるために必要な人権感覚は、児童生徒に繰り返し言葉で説明するだけで身に付くものではない。このような人権感覚を身に付けるためには、学級をはじめ学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを児童生徒自身が実感できるような状況を生み出すことが肝要である。個々の児童生徒が、自らについて一人の人間として大切にされているという実感を持つことができるときに、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生え、育つことが容易になるからである。

(文部科学省 人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 2.学校教育における人権教育)

クラスの実態として、一学期の始めにはきつい言い方で注意をして友だちを泣かせてしまう子や、自分本位の発言をしてしまいけんかをする子もいた。そこで、友だちの悪い部分にばかり着目するのではなく、友だちのよさを見つけて認めてあげることが必要であると感じた。そのため、帰りの会の時間や、道徳の時間を使って、子どもたち同士が認め合える活動を行うことにした。

## これまでの活動

### ○ 「いいことみつけたよ」

帰りの会の時間に「いいことみつけたよ」という時間を取り、その日の中で友だちにしてもらってうれしかったことや、友だちに言われて嬉しかったことを発表している。

また1学期の終わりには、その日にあった友だちの「いいところ」を書かせ、教室内に掲示をした。(子どもたちから出た意見は右図参照) 子どもたちからはたくさんの種類の意見が挙げられた。クラスの中には、友だちのよさをすぐに見つけられる児童が多い一方で、なかなか友だちのよさを見つけれない児童も数人いた。そこで、子どもたちから出た意見を教師から提示し、子どもたちがお互いのよさを見つける活動を道徳の時間を使って行った。

2-1 「いいことみつけたよ」 集計結果
項目
つくえを運んでくれた
自分のものを拾ってくれた
分からないことを教えてくれた
「うまいね」と言ってくれた
「あそぼう」と言ってくれた
パスをしてくれた
仲間に入れてくれた
(自分のものを)持ってきてくれた
ものを貸してくれた
そうじを一生懸命やってくれた
「一緒に行こう」と誘ってくれた
「ありがとう」と言ってくれた
優しくしてくれた
「大丈夫」と言ってくれた
(遊びに誘ったら)「いいよ」と言ってくれた
保健室に連れていってくれた
プレゼントを作ってくれた
仕事を分けてくれた
「がんばれ」と言ってくれた
(キーパーやボール蹴りを)やらせてくれた
(「ごめんね」に対し)「いいよ」と言ってくれた
ハイタッチをしてくれた
なくしたものを探してくれた
心配してくれた

# 第2学年1組 道徳科 学習指導案

指導者 桐山 祐希

1 主題名 よさを伸ばす 【内容A 個性の伸長】

2 題材名 「とおるさんのゆめ」(出典:「小学道徳2 はばたこう明日へ」 教育出版)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値

この時期の児童は、自分の特徴(よいところ)をもっているが、そのことを自分のよいところとして気づいている児童は少ない。また、自分自身を客観視することが十分ではないので、自分のよいところについては、友達や教師に認められることで気付くことが多い。そのようなこともあり、友達や教師との関わりを通して気付くことの出来る自分のよいところを出来るだけ増やし、そのよさを伸ばしていこうとする事が大切である。

そこで、本時の授業の中で教材文を読んだり、自分のよいところを友達や教師に認めてもらったりする事で、「自分の特徴に気付くこと」につながると考える。

(2)児童の実態について

本学級は男子10名、女子12名の計22名の学級である。クラス全体としては元気な児童が多く、休み時間には外に出て遊び、授業中も意欲的に学習に取り組んでいる。帰りの会の「よいことみつけたよ」の時間では、友達にしてもらって嬉しかったことを発表している。子どもたちから積極的に手が挙がる事が多く、他の子も嬉しそうに発言を聞いている。1学期の終わりには、友達の良いところを書いて教室に掲示をした。子どもたち同士の仲は良く、友達の良いところを見つけたり、励ましたりすることの出来る児童は多いが、なかなか自分に対して自信の持てない児童もいる。

本時では、友達同士でお互いの良いところを見つけ合う活動を通して、自分のよさに気づかせる。こうすることで、自分のよさに気づき少しでも自信の持てる児童を育てたい。

(3)教材について

本教材は、朝の会や帰りの会で行われている「友だちのよいところ」を伝える時間から話が始まる。「よいところ」を伝えられているとおるさんに対して、主人公の「ぼく」は「やさしいところ」くらいしか見つけられずにいた。しかし、クラスの友だちはとおるさんの「よいところ」を次々に伝えていく。驚いた「ぼく」も手を挙げて発表する。最後にとおるさんはお礼を言い、自分の夢を語る話である。

本教材で、友だち(とおるさん)のよさを知らなかった「ぼく」、また友だち(とおるさん)にはたくさんよさがあることに気付く「ぼく」の二つに注目させる。その後友だちとの話し合い活動を通して、自分のよさに気づかせたい。

#### 4 ねらい

自分のよいところに気づき，そのよいところを伸ばすことが出来るようになる。

〈育てたい児童の姿〉

- ・友達との関わりを通して，自分のよいところに気付く。
- ・自分の良いところだけではなく，友だちの良いところについても考える。

#### 5 本時の展開

段階	学習活動 ◎主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入 5分	1 これまで書いてきた「いいことみつけたよ」の内容を全員で確認する。  2 めあての確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇くんはそうじをいつも一生懸命頑張っている。</li> <li>・〇〇ちゃんは分からないところを教えてくれる。</li> <li>・みんなたくさんいいところがある。</li> </ul>	○自分たちの生活の中で，たくさん良いところがあることに気づかせる。
じぶんのよさに気づこう			
展開 30分	3 「とおるさんのゆめ」の範読を聞く。  4 「とおるさんのゆめ」の内容について確認をする。 ◎みんなが，とおるさんの良いところを伝えているとき，「ぼく」はどのように思ったでしょう。  ◎とおるさんの話を聞いて，「ぼく」はどのように思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とおるさんのよさが見つけられないな。</li> <li>・とおるさんには，たくさん良いところがあるんだな。</li> <li>・とおるさんのこと全然知らなかった。</li> <li>・とおるさんは自分の夢に向かって頑張っているんだな。</li> <li>・とおるさんは，自分の夢のために頑張っていてすごい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○とおるさんのよさを見つけられない「ぼく」の気持ちを考えさせる。</li> <li>○自分が知らなかった友達のよさを知る，「ぼく」に気づかせる。</li> <li>○教科書 p69 の2行目から4行目のとおるさんのセリフから，とおるさんの夢を知る「ぼく」に気づかせる。</li> </ul>

	5	友達のよさを考え、メッセージカードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんはいつも忘れずに当番活動をしていてすごい。</li> <li>・〇〇さんはいつも困ったときに助けてくれる。</li> <li>・〇〇さんは字がうまい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班の友達のよさを見つけて、記入するよう指示をする。</li> <li>○拡大したメッセージカードを黒板に貼り、書き方の例を示す。</li> </ul>
	6	班の中で、友達の良いところを伝えあい、カードを渡す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○カードの渡し方を指示する。</li> <li>○全員が渡し終わったところで、カードをワークシートに貼りつけるよう指示する。</li> </ul>
	7	カードの中で、自分も感じる点には赤、自分では気づかなかった点には青で○を書く。		
	8	色分けしてどうだったのか、全体で感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に言われて、自分でも気づかなかったよさがあった。</li> <li>・自分が感じていたよさは、友達も感じていることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が思っていたよさでも、新しく気づいたよさでもどちらでも良いことを伝える。</li> <li>○確認をする際に、赤が多かった人から発表し、次に青が多かった人を発表させる。</li> </ul>
終末 10分	9	自分のよさ、今日の授業で感じたことをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分には、たくさんの良いところがあることが分かった。</li> <li>・友達に言ってもらったよさをこれからも大切にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書き終わったら、自分のよさや感想を発表させる。</li> </ul>
	10	2組さんからのビデオレターを見て、本時のまとめを行う。		

だいにがきんぐ 8月28日(水)なまえ  
**だい名** わたしのよせ

せんへ  
 プールのおま25メートルが  
 よびこすごいびです。



さんへ  
 サッカーがしうがですごいと  
 思っただ。



だいにがきんぐはなむいんがな  
 サッカーがうまい。  
 だいにがきんぐはなむいんがな  
 自分てごんなにすごいんだ  
 と思っました。



だいにがきんぐ 8月28日(水)なまえ  
**だい名** わたしのよせ

さんへ  
 いつも人にやさし  
 いことばをいってあげて  
 くれて



さんへ  
 サッカーがうま  
 いです。

だいにがきんぐはなむいんがな  
 かんはれいといらうとこう  
 れからいといこをわめてあげ  
 ることば  
 だいにがきんぐはなむいんがな  
 だになと思っました。



だいにがきんぐ 8月28日(水)なまえ  
**だい名** わたしのよせ

せんへ  
 いつもやさしくしてくれ  
 てありがとう。



さんへ  
 だいにがきんぐはなむいんがな  
 ます。



だいにがきんぐはなむいんがな  
 だいにがきんぐはなむいんがな  
 今のはじめのころも  
 しくしていらるとあれ



だいにがきんぐ 8月28日(水)なまえ  
**だい名** わたしのよせ

ちゃんへ  
 えんひつけすさをたれはせ  
 かけてあげるといふかわい  
 くて



さんへ  
 いかにあそんでくれて  
 うれしいです。

だいにがきんぐはなむいんがな  
 まわりをいはいみることば  
 だいにがきんぐはなむいんがな  
 こまないことば、たんだてお  
 そいました。



れんがちゃんへ  
 絵がうまいです  
 などおもいました。



## 7 成果と課題

### (1) 児童の意見

#### ○子どもたちが見つけた自分のよさ

- ・サッカーがうまい
- ・水泳がうまい
- ・野球がうまい
- ・虫の観察ができるところ
- ・みんなが作れない物を作れるところ
- ・分からない問題を教えてあげるところ
- ・人にやさしいところ
- ・「がんばれ」と言うところ
- ・一緒に机を運んであげるところ
- ・友だちを誘ってあげるところ



#### ○学習感想

- ・自分っていいところいっぱいあるんだなと思いました。
- ・僕はこんなにいいことをしてたんだなと思いました。
- ・自分はそんなに字がうまいんだと思いました。
- ・自分がサッカー選手になれそうなくらいサッカーがうまいのかと思いました。
- ・自分のよさがあるんだと初めて知りました。
- ・自分はこんなにすごいんだと思いました。
- ・今日初めていつもやさしくしてと言われてました。
- ・お友達にいろいろなことを言われてとてもうれしいです。

### (2) 授業者の反省

- ・友だちから自分のよさを教えてもらうことで、意欲的に活動に取り組むことができ、またほとんどの児童が自分のよさに気付くことができた。
- ・友だちの意見から、新しく自分のよさに気付く児童も多くいた。
- ・友だちから自分のよさをたくさん教えてもらうことで、自分に自信を持つ子も多くいた。
- ・「〇〇がうまい」という能力面でのよさや、「やさしい」といった行動面でのよさなど、様々な面でのよさを見つけたり、気づいたりすることができた。
- ・2組さんから送られてきたビデオレター見ることで、他のクラスの友だちからの意見も聞くことができた。
- ・クラスの中に掲示した「いいこと見つけたよ」はクラス全体の中から自分が選んだ友だちのよさを見つける活動であったのに対し、今回の活動は班全員のよさを見つけて書く活動であった。そのため、よさを見つけるのに時間がかかる児童や、なかなか書くことができない児童もいた。

### (3) 研究協議から

- ・子どもたちが自分のよさに気づいて、純粹に喜んでいる姿がよかった。
- ・授業の最初に「いいこと見つけたよ」の内容を短冊にして掲示したことで、クラスの中でどんなよさが今まで出たのか子どもたちが気付くことができていた。
- ・もう一回時間をかけて、まとめの部分子どもたちと話し合った方がよい。
- ・自分のよさを知ったら、授業の最後にこれからどんなことを頑張りたいのか書かせてもよかった。(運動会などの大きな活動ごとに自分の頑張りたいことを決めさせるとよい)
- ・最後のまとめの部分では、意外なところや自分の気づかなかったよさを中心にまとめるとよかった。
- ・自己肯定感や自己有用感を子どもたちに持たせ、自信をつけさせることが大切である。
- ・一人ひとりによさがあるということも大切ではあるが、みんな違うよさがあるということでまとめをしてもよかった。

## 8 児童のその後の様子

### (1) 2組さんへのビデオレター作り

授業の終わりに、「今度はみんながビデオレターを作って2組さんに届けてあげよう」という話をし、そのビデオレターづくりを後日行った。縦割りで一緒の班の友達にメッセージを送るということで話す内容を考え、ビデオレターを撮影した。どんなことを話すか考える段階で、子どもたちも一生懸命考える姿が見られた。またグループで友だちのよさを見つけるという活動にしたため、どんなことを話せばいいのかわからないという児童はいなかった。子どもたちから挙げられたメッセージには以下のようなものがあった。

- ・いつも面白い
- ・いつも元気
- ・絵がうまい
- ・泳ぐのが得意
- ・いつも笑顔
- ・いつもやさしい
- ・そばにいと楽しい
- ・サッカーが得意
- ・足が早い
- ・習字が上手

### (2) 運動会に向けての取り組み

運動会の練習では、友だちの多くのよさが見つけられるチャンスであるということ子どもたちに伝え、教師の方からもその日に見つけた児童のよさをいくつか提示をした。その後、以前と同じように、運動会の練習の中で見つけた友だちのよさを子どもたちに書かせ、教室内に掲示をした。毎日見つけるのは難しいと感じたため、1週間の間に友だちのよいところを見つけ、金曜日の帰りの時間に書かせるようにした。子どもたちから出たメッセージは以下のようなものがあった。





- ・「リズムに乗っていていいね。」と言ってくれました。
- ・「後小音頭うまい。」と言ってくれました
- ・ダンスで丸くなる時に、「もう少し広がって」と合図を言ってくれました。
- ・ラジオを片付ける時、階段を登っていたら「危ないから気をつけて」と言ってくれました。
- ・みんなの水筒を片付けてくれていました。

運動会の練習を通して、子どもたちの中にも友だちのよさに気付くことや、また友だちからの意見を聞いて自分のよさに気付くことが出来てきているように感じる。教師から子どもたちのよさを伝えていくことはもちろんだが、引き続き子どもたち同士でもお互いのよさに気づかせ、お互いを認め合える環境を作っていきたい。

## 9 まとめ

これまでの人権教育では、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]をねらいとする学習は、道徳の時間を中心に行ってきた。今回、その学習のさらなる広がりを目指して、道徳の授業で班の友だちへのメッセージカードを作る活動や、帰りの会の「いいこと見つけたよ」の時間を使って友だちのよさを伝え、その内容をメッセージに書いて掲示する活動を行った。道徳の授業実践では、自分が友だちからやさしいと思われていたことに初めて気づいた子がいたり、自分が得意だと思っていたことを友だちからも上手と言われて、さらに自信をつけたりする子もいた。「いいこと見つけたよ」の取り組みでは、友だちから自分のよい行動について話をされることで、さらにより行動をとろうとする子も見られた。

今回の活動を通して、子どもたちは自分のよさに気付くだけでなく、友だちのよさを認めること、また人それぞれ違ったよさがあることに気付けたように感じる。相手の苦手なところやできないところを否定するのではなく、その違いを認めて相手に対して優しく教えてあげる姿も見られるようになってきた。また相手のよさを認めて、「すごいね」、「上手だね」といった言葉かけも見られ、お互いのよさを認められる心も育ってきたように感じる。2学期から3学期にかけて、マラソン大会やなわとびチャンピオン大会など、子どもたちの頑張りが期待できる活動が多くある。そういった活動なども絡めながら、お互いのよいところを認め、自分のよさをさらに伸ばしていけるようになっていきたい。

